

【いのちをいただく】

みなさんは、この十歳の女の子のように、思っでご飯を食べている人はいますか。あまりいないのではないかと思います。

今の生活は、「いのちをいただく」というイメージからずいぶん遠くなってきています。そしてその結果、食べ物が粗末に扱われて、日本での一年間の食べ残しは、何と1年間に3300万人分の栄養をまかなえるくらいになるそうです。

これは、カナダやオーストラリアの人口に匹敵します。

私たちは奪われた命の意味も深く考えないで、毎日の食事をしていきます。

動物は、みんな自分の食べ物を自分で獲って生きているのに、人間だけが、自分で直接手を汚すこともなく、坂本さんのような方々の苦しみや悲しみを知らないまま、毎日の食事を食べています。

動物だろうが植物だろうが、どんな生き物だって、自分の命の限り精いっぱい生き続けたい、そう願って生きているんだと思います。

食べ物をいただくとき、そこに尊い命があったことを忘れずに、その命を敬い、感謝の言葉をかけてあげられる人になってほしいと願っています。

今日もまた、食べることができることへの感謝の言葉、「ありがとうございます。いただきます」そして食べ終わった後、「美味しかった。ありがとうございます。ご馳走さまでした」という「食べることができたこと」への感謝の言葉をかけてあげましょう。

食べ物になった命は、みんなの体に姿を変えて、あなたの中で生き続けます。

そして、体の中からあなたを精一杯応援してくれています。

みんなができる最高の恩返しは、たくさんの生き物たちから命のバトンを託されたあなたの命を、いっばいに輝かせること。

それが、みんなといっしょに、みんなの体の中でいきているたくさんの命たちが、いちばん喜ぶことだと思います。

給食をおいしくいただいて、みんなの分まで、命いっばいに輝きましょう。

